



つくばの 生物多様性

—つくば市生物多様性調査結果の概要—

令和 7 年(2025年)4 月



生きもの調査の実施

市内の20か所を中心に生きものを調べました

つくば市では、生物多様性を守り活かす計画（生物多様性つくば戦略）を作るために、市内の生きものを調べました。植物（維管束植物）や動物（ほ乳類、鳥類、は虫類、両生類、昆虫類）について、つくば市、筑波大学、国立環境研究所などの専門家たちが協力して、市内の20か所を中心に調査を行いました。

この調査は、つくば市の自然や生きものの豊かさを知るために大切な取り組みです。



調べた期間：2023年4月～2024年6月

つくば市に生息する希少な生きもの

つくば市内では合計183種の希少な生きものが見つかりました。天然記念物が3種類、国内希少野生動植物種は2種類、環境省レッドリストに載っている種類は74種、茨城県レッドデータブックに載っている種類は167種が見つかっています。

中でも、アオヘリアオゴミムシというゴミムシのなかまは「環境省レッドリスト2020」・「茨城県レッドデータブック2016」で絶滅危惧IA類に指定されており、茨城県内で60年近く見つかっていませんでしたが、今回の調査でつくば市内で生息しているのが見つかりました。

こうした希少な生きものは身近な場所にもすんでいて、守っていく必要があります。



アオヘリアオゴミムシ

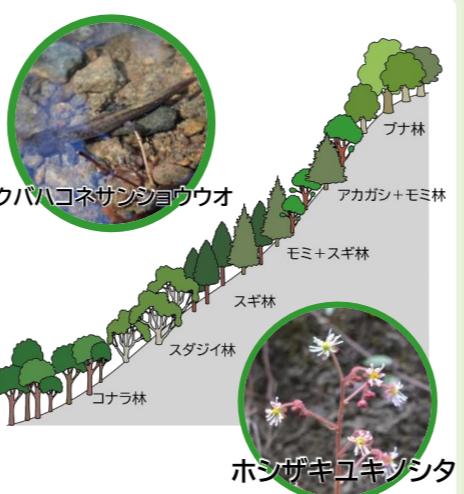
つくば市の生物多様性のすがた

つくば市で見つかった生きもの

つくば市で動植物の調査をしたところ、今回の調査では3,500種以上の生きものが見つかりました。

つくば市のほとんどの場所は暖かい気候（暖温帯）で平らな平地ですが、筑波山（標高877m）の頂上付近は、少し寒い気候（冷温帯）になっています。ツクバハコネサンショウウオ、筑波山周辺には豊かな自然があり、平地には田んぼや里山など、人が昔から使ってきた自然があります。また、研究学園都市をつくるときには生きものにやさしい設計をしました。これらの特徴のおかげで、市内のいろいろな場所に多くの生きものがすんでいます。

一方、地域の生きものや人の健康、産業などに悪影響を及ぼす外来種も多く見つかりました。これは気を付けなければいけない点です。



植物

1,353種類の植物が見つかりました。筑波山では、山の下から頂上に向かって植物の種類が変わります。珍しい植物もありますが、中でも草原や湿地で育つ珍しい植物は減っています。市街地の中にも緑があり、動物たちの大好きなすみかになっています。

ほ乳類

コウモリ類約5種類を含む23種類が見つかりました。筑波山にはニホンリスなどの森にすむ動物、平らな土地にはキツネ、市街地の近くにはタヌキがいます。カヤネズミなどの珍しい種類も見つかりました。

鳥類

139種類が見つかりました。筑波山には夏に子育てにやってくる鳥や、渡り途中に休憩する鳥、冬を過ごす鳥もいます。平らな土地には草原にすむ鳥がいて、林には夏と冬で違う鳥がいます。市街地にある公園の池には冬にたくさんのカモが来ます。

両生類

11種類が見つかりました。筑波山にはツクバハコネサンショウウオや山にすむカエル類がいます。平らな土地の田んぼにはいろいろなカエル類がいます。以前は見つかりっていたアカハライモリが見つからず、とても減っているかもしれません。

は虫類

14種類が見つかりました。外来種のアカミミガメが多いですが、在来種のニホンヌッポンもいます。ニホンヤモリやニホンカナヘビ、ヘビのなかまもいます。よく見かけるはずのシマヘビが、餌となるカエルなどの減少で少なくなっているかもしれません。

昆虫類

1,976種類が見つかりました。筑波山や平地林に多くの虫がすんでいます。池や川にはトンボがたくさんいます。最近は暖かい場所にすんでいた虫が涼しい場所へすみかを広げています。筑波山など、標高が高く涼しい場所にすむ虫たちへの影響が心配です。

特定外来生物



オオキンケイギク

アライグマ



ウシガエル

クビアカツヤカミキリ

条件付特定外来生物



アカミミガメ

アメリカザリガニ

周辺自治体で侵入が確認



キョン

もしつくば市内に入ってきた場合、農家の人の大切な農作物をたべたり、家の庭に入ってきて庭の木や花を食べてしまうかもしれません。

これからも調査を続けていく必要があります

つくば市では、約2年間かけてたくさんの生きものを調べました。一方で、コケやキノコ、魚、虫以外の節足動物など、まだ調べられていない生きものもたくさんいます。また、今回の調査で見つけられなかった種類もいると考えられます。これからも、つくば市の生きものを調べ続けます。そうすることで、つくば市の自然をもっとよく知り、生物多様性を守り活かすことにつなげていきます。

今回の調査で見かけた、これから調査が必要な生きもののなかま



イチョウウキゴケ
(コケのなかま)

ミナミメダカ
(魚類)

シロオビトリノフンドマシ
(クモのなかま)

ヤマキサゴ
(カタツムリのなかま)

つくば市の生物多様性の特徴

生物多様性の成り立ち～生物多様性の3つのエリア～

つくば市の自然の特徴は、①昔からの自然が残る筑波山、②人と自然が共生する田んぼや里山、③昔からの自然も残された研究学園都市の3つの大切な場所があることです。これらの場所があることで、つくば市にはいろいろな種類の生きものがすむことができています。つくば市は、新しい街と昔からの自然がうまく混ざり合った、とても珍しい場所なのです。

人と自然が共生する田んぼや里山

市内には、平地林や農地、ため池などの田園風景がたくさんあります。例えば、平地の森や神社の森にはカブトムシやクロウ、田んぼにはアマガエル、芝畠にはヒバリなど、さまざまな生きものが人と一緒に暮らしています。

田園・里山エリアの土地利用

多くが農地で構成され、市の北西部には畠、北東部には田んぼがたくさんあります。農地の合間にには、小さな森や工場が点在しています。

川の生物多様性

つくば市にはいくつかの川が流れています。小貝川ではキタミソウ、桜川ではヨロイグサが生育するなど、珍しい植物が生えています。



キタミソウ

筑波山系の山麓

筑波山のふもとには、昔からある「谷津田」(谷間にある田んぼ)がところどころにあります。ここには、最近数が減っているニホンアカガエルやアズマヒキガエルなどがたくさんすんでいます。一方で、管理する人がいなくなったり、使われなくなったり、外来種が広がったりして、こうした生きものが姿を消そうとしています。



ニホンアカガエル

平地に点在する谷戸

つくば市の平らな土地には、ところどころ谷のような地形の場所があります。この場所は谷戸(やと)と呼ばれ、家を建てたりするのが難しいことから、昔のままの自然が残っています。こうした場所では、タコノアシという水辺に生える珍しい植物や、カエルのなかまやコオイムシのような水の中で暮らす昆虫、これらを餌にするサシバというタカのなかまが生活しています。谷戸は、自然の宝箱のような場所です。



サシバ



市内の平地林



市内の農地

凡例

- 筑波山エリア
- 田園・里山エリア
- 研究学園都市エリア
- 田
- 畠
- 平地林・公園・緑地
- 住宅・商工業用地その他

※各エリアの特徴を明瞭にするため、エリアごとに色を変えています。



豊かな緑のある河川

昔からの自然が残り、さまざまな生きものがすむ筑波山

筑波山は、とても面白い山です。山のふもとから頂上へ登っていくと、気温が下がります。そのため、標高によって違う植物が生えています。頂上にはブナの森があり、中腹には暖かい場所にすむ生きものと寒い場所にすむ生きもの両方が暮らしています。筑波山は比較的小さな山ですが、たくさんの種類の生きものがすみ、絶滅危惧種のツクバハコネサンショウウオも生息している特別な場所です。



筑波山の山容

筑波山エリアの土地利用

そのほとんどが森林で、木の上や森の中、沢などの水の中や水のそばで暮らす生きものがすんでいます。

筑波山つつじヶ丘

つつじヶ丘には、人々の保全活動のおかげで、小さなススキの草原が残されています。この草原には、フレモコウやタムラソウという珍しい植物が育っています。



タムラソウ

様々なタイプの森林

筑波山には標高によって3つの違う森があります。山のふもとは暖かい場所に生える木の森、山の上の寒い場所に生える木の森、その両方が混じる中間の森。高さによって違う種類の木が生えているので、それぞれの場所にあった動物や植物が暮らします。



寒い森に生えているヒイラギソウ

鳥類の繁殖地・中継地・越冬地

筑波山系の周辺には高い山はなく、特に山地性・樹林性鳥類の貴重な繁殖地・中継地・越冬地となっています。



筑波山エリアを渡り途中に通過するハチクマ

昔からの自然も残された研究学園都市

研究学園都市には、たくさんの緑があります。公園や歩道の緑地、大学、研究所の周りの緑地がつながってひとつの大きな緑の空間を作っています。こうした緑地のおかげで、キンランやオオタカなど、珍しい生き物を見ることができます。建物がたくさんあって、生きものがすめる自然を大切にしている特別な場所なのです。

ペデストリアンデッキ

つくば市の街の中には、南北に延びる歩行者用のデッキがあります。このデッキの周りには、いろいろな種類の街路樹や植物が植えられています。小さな公園や緑のスペースがつながり、鳥や昆虫たちが移動するための通り道になっています。



ペデストリアンデッキ

市街地に残された平地林

つくば市の市街地に残っている小さな森では、市民の人たちが協力して森の手入れをしています。その結果、キンランなどの珍しい植物が育っています。この森は、周りの田んぼと一体になって、フクロウなどの生きものを育む、大切な場所になっています。



キンラン



フクロウのひな

研究学園都市エリアの土地利用

つくば市は、住宅やお店、工場などがある都市ですが、同時にたくさんの緑も残っています。筑波大学や工場の周りには広い緑のスペースがあり、都市の中にたくさんの緑があるのはつくば市の大きな特徴です。

点在する水辺環境

市街地には、調節池や公園の池など、いろいろな水辺があります。これらの水辺には、カモやカツブリ、カワセミなどの水辺の鳥、チョウトンボなどの昆虫が暮らしています。



公園の池に生息するカツブリ



洞峰公園

生物多様性の共創によるネイチャーポジティブの実現

一人ひとりが取り組めること

自然や生きものに目を向けよう！

身近な自然や生きものに触れたり、生物多様性について学んだりしながら、自然の恵みや日々の暮らしとのつながりを理解しましょう。

外来種を野外に放さない！

アカミミガメやアメリカザリガニなどの外来種は、生態系（生きもの同士のつながり）を壊してしまうことがあります。育てているペットや植物は、野外に放さないようにしましょう。

生物多様性に配慮した暮らしへ！

生物多様性への負担を減らすため、生物多様性に配慮した商品を購入したり、ごみや汚水を減らしたり、生きものに配慮した緑地を増やしたりしましょう。

保全活動や観察会に参加してみよう！

市や市民団体などが行う自然観察会や保全活動に参加してみましょう。地域の自然について学びながら、自分でもできることが見つかっていきます。



市民調査体験会の様子

市民団体に期待されること

市民団体は、つくば市の生物多様性の保全や普及啓発などにおいて重要な役割を果たしてきました。今後も、市民が参加できる自然観察会や自然体験会、保全活動イベントなどを開催し、生物多様性の保全・回復につながる取組を実施・継続していくことが期待されます。

事業者に期待されること

事業者には、オフィスや工場などの敷地内で生物多様性に配慮した緑地の創出・管理を行ったり、自然体験会の開催、外来種駆除などの取組を進めることができます。また、サプライチェーン全体で生物多様性を意識したり、事業活動の生物多様性へ与える影響を把握し、その影響をできる限り小さくすることが期待されます。

研究・教育機関に期待されること

研究・教育機関には、身近な自然や生きものに対する子どもや学生の興味・関心を高めたり、保全活動に取り組む人材の育成や、新しい技術の開発・普及に努めること、専門的な立場から指導することなどが期待されます。敷地内で生物多様性に配慮した緑地の創出・管理を行ったり、自然体験会や外来種の駆除に協力・実践することなども求められます。

つくば市の取組

生物多様性に関する市の取組を推進します！

生物多様性を守り活かす計画（生物多様性つくば戦略）に基づき、市の取組を着実に推進し、生物多様性の保全・回復を積極的に進めます。

普及啓発・情報発信を行っていきます！

市広報紙や講演会などで、生物多様性の大切さや保全活動についてわかりやすく伝えていきます。また、市民が自然に触れたり考えたりする場も提供します。

生物多様性に取り組む輪を広げていきます！

生物多様性の保全・回復を進めるには、つくば市の取組だけでなく、市民や市民団体、事業者、研究・教育機関などと連携・協力していくことが重要です。

つくば市では市内の生物多様性に関する活動を推進するため「つくば市生物多様性センター（仮称）」と「つくば市の生物多様性に関する活動協議会（仮称）」を設置し、生物多様性を守り活かす取組の輪を広げていきます。

つくばの生物多様性 一つつくば市生物多様性調査結果の概要一
令和7年(2025年)4月

編集・発行 つくば市 生活環境部 環境保全課
〒305-8555 茨城県つくば市研究学園一丁目1番地1
TEL:029-883-1111(代表)

生物多様性つくば戦略について知りたい方は、つくば市HPよりご覧ください。

